

今月のコラム

空き地スペースで菜園研修 「ミラクルバイオ農法(有機無農薬栽培)」

(株)JA東海グリーン 前田 悟



今年から県下JAグリーン店舗の従業員対象に菜園研修会を3月から始めました。目的はフィールド主体の作業等、実体験を通じて従業員の栽培技術やオリジナル商品等を含めた実践的知識の向上をはかり売場接客力強化を狙っています。

近年、菜園ブームも本格的になり若い世代のお客様ニーズは特に有機無農薬で環境負荷を極力軽減した栽培をしたいがどうすれば良いかなど店頭で頻りに聴かれます。また、プロ農家では温暖化による高温障害が栽培上大きな問題になっており、いろんな対処法を模索している状態ですがこれと言った決め手が見つかりません。

当社では、前から研究開発し温めていたオリジナル資材等を駆使して、だれでも簡単に栽培ができるノウハウを実践して蓄積してきました。コンセプトは初心者からプロまで気軽に頑張らないで簡単にだれでも野菜が収穫でき、また環境にもやさしい手軽な栽培法をミラクルバイオ農法として名づけ普及に取り組んできました。オーガニック資材のみで、化学肥料、農薬は一切使わずにすべての栽培期間をミラクルバイオ農法は、JAミラクルバイオ肥料+ソイルキャッチ+ニーム+ぼかし鶏糞などの資材を使用し完全有機無農薬を目指しています。

今回の研修圃場は造成客土が地下鉄の残土のためコンクリート片や石、レンガ、木切れなどが混入した排水が悪い粘土質土壌の環境状態にありました。

圃場にミラクルバイオ肥料+ソイルキャッチなどを規定量散布することでミネラルの補給のほか、有用微生物が豊富になり、ふかふかの土壌となりました。

フルボ酸鉄、腐植酸等の効果で連作を気にせず、健全な作物は病害虫を寄せ付けない生育環境を実現しました。

月1回の研修会開催日に全員で追肥など栽培管理作業を行い、週1回の間隔で忌避効果抜群資材、ニーム液とケーキを1か月一回使い予防を行い無傷の素晴らしい西瓜の空中栽培をはじめ、雨除け対策を施したトマト、なす、きゅうり収穫ができました。毎回、昼食にサラダ、浅漬けに料理して食しました。

また、菜園でコンパニオンプランツやガーデニンググッズを取り入れたりし牧歌風景に見立てを楽しんだり、虫や紫外線、涼しさなど機能性の高いファッションブルな服装でおしゃれを楽しんでいます。今後更に衣料分野を大きく展開しバージョンアップして行く目標を掲げています。

最後に一言、ワークショップは全員が楽しくコミュニケーションがはかれ最高の研修効果が出ています。



開墾作業風景



4月に定植した苗の5月の状態



6月には黄金小玉スイカ
1番から3番なり



アニマルオブジェ



カエデ
kaede

2013年 八ヶ岳セミナー 9月25日・26日、募集中

25日は壁面緑化=伊藤孝巳氏

26日は宿根草=水野隆氏



伊藤孝巳氏



水野隆氏

ガーデンを考える会主催、錦秋恒例の八ヶ岳セミナーは9月25日、26日にフィオーレ小淵沢(ガーデントライアルフィオーレ会場内)で行われる。両日とも13:30～15:00。

今回は、世界中で急速にひろまっている中、日本でも火がつき始めた「室内緑化」と、今後大いに期待される「宿根草」についての2本立てであり、いずれも今後ビジネスを考えるうえで欠かせない内容になっている。

25日の室内緑化は、スリット式ハンギングバスケット、各種立体花壇システムなど多くの技術・商品開発に成功した(株)伊藤商事の伊藤孝巳社長が「壁面緑化、壁面花壇の最新技術」と題して、土を使わない画期的なシステムを講演するとともに、展示会場では、室内、屋外において現物を展示する。

26日の宿根草は、宿根草での売り場作りをする事により「花苗と鉢花」および「野菜苗」以外の、新たな販売の柱づくりを提唱するハクサンインターナショナル(株)社長・ガーデンを考える会会長の水野隆氏が、宿根草で売り上げを作り出すポイント「1. 売れ筋宿根草のニューフェイス」「2. これだけは揃えたい定番の宿根草」「3. 宿根草のノウハウについての店頭提案」「4. 店頭以外の売り場 ロジスティックの構築」のヒントをわかりやすく講演する。

参加費は、会員は3000円、非会員は5000円。

各セミナー40名限定募集で、すでに多くの申込みがあり、残席が少なくなっているため、希望者は早めにお申し込みを。

申込みはガーデンを考える会のホームページ、または事務局(TEL:052-571-7911)まで。

HP <http://www.npogarden.com/>



宿根草を庭に植えこんだボーダー花壇



見事に育てた見本鉢を置く宿根草売り場



土を使わない画期的な壁面緑化



カエデ
kaede

第30回全国都市緑化とっとりフェア

9月21日(土)～11月10日(日) 湖山池公園を主会場に開催

「第30回全国都市緑化とっとりフェア(愛称:水と緑のオアシスとっとり2013)」が9月21日から11月10日まで、湖山池公園(鳥取市)を主会場に開催される。「ともに育てる身近な緑～水と緑につつまれた世界ジオパークのまちから～」をテーマに、身近な野山にある草花などの美しさを再発見し“ナチュラルガーデン”という形で公共スペースや自宅の庭などの生活空間を緑化する「鳥取流緑化スタイル」を発信する。

主会場となるのは、世界ジオパークに認定されている「山陰海岸ジオパーク」のジオスポットのひとつで、日本のナチュラルガーデンの第一人者であるポール・スミザー氏の監修による「ナチュラルガーデン」で来場者を迎える。

<http://oasistottori.jp/>



砂と植物の儚くも美しいアート

坂梨一郎氏など表彰

園芸文化協会

(社)園芸文化協会(保坂三蔵会長)は、6月26日、東京・東天紅上野店において平成24年度通常総会ならびに「平成25年度園芸文化賞」表彰式などを開催した。

園芸文化賞表彰では、日本ハンギングバスケット協会元理事長・名誉会長であり東山植物園元園長・故坂梨一郎氏、東アジア野生植物研究会主宰・森和男氏、リンドウ・バラ育種家の吉池貞蔵氏が受賞した。

園芸文化賞受賞者(前列左より吉池貞蔵氏、一人置いて坂梨一郎氏(坂梨美名子夫人)、森和男氏)▶



テーブルウェアフェス2014

イメージガーデンを展示、協力者募集

30万人のセレブが集まるイベントとして知られる「テーブルウェア・フェスティバル 2014」が来年2月2～10日の9日間、東京ドームで開かれることになり、今回もエントランスに「イメージガーデン」を展示することになった。

イベント自体は22回目で、イメージガーデンは今年始めて設けられたものだが、入場者の反響の大きさに主催者側から「次回も是非展示してほしい」と要請があったもの。

次回に向けての第1回会議がこのほど東京ドームで開かれ、コーディネーターの竹谷仁志氏(お花がかり)、金澤大樹氏(矢祭園芸)を中心に花市場、生産者、種苗会社など14名が集まって協議した。

今年は準備期間も短かったこともあって、業界関係者への呼びかけがほとんどできなかったが、次回は植物関係だけでなく、ガーデンファニチャーなど雑貨関係にも協力を求めていくことになった。

<http://www.tokyo-dome.co.jp/tableware/>



人気を博した今年のイメージガーデン



カエデ
kaede



ホームカクテルにはレモンかライム

ハクサンインターナショナル株式会社
インタープランツネット事業 藤田 純



春先、あるライフスタイルショップのバイヤーから『レモンやライムの小さな苗木を取り扱いたい』と問い合わせがありました。聞けば今夏『ホームカクテル』というMD企画で炭酸水マシンをはじめシェーカーやグラス、各種フレーバーなどと一緒に売場展開したいとのことでした。『仕事を終えて帰宅したあと、自宅でカクテルを楽しむ。そんなときにベランダで育てたレモンやライムをその場で収穫して使えたら最高じゃないですか！』とバイヤーは言います。しかし現実にはレモンやライムは小さな苗木から結実までには数年かかりますし、そもそも収穫時期は秋から冬にかけてですから夏の企画には無理があります。そして結局『ホームカクテル』企画のなかにレモンやライムの苗木は採用見送りとなってしまいました。

しかしその商談のあと、なんだか私自身がレモンやライムを自宅で育てたい衝動に駆られました。バイヤーのセリフからその情景が思い描かれ、レモンやライムを育てることがとてもオシャレでカッコよく思えたからです。

植物のベンダー業務を行っている、ついつい品種ごとの特性ばかりに目が向きがちになります。花であれば花色や花形、観葉植物であればインテリア性、野菜であれば食味や収量などなど…。しかし、それらはあくまで商品スペック。車でいえばエンジン出力や燃費性能、パソコンでいえばメモリやCPU。でも実際に商品スペックがセールスポモーションとして通用するのは、ある程度の知識や経験を持つ消費者に限られてしまいます。やはり商品をより多くの消費者にアピールするためには、車やパソコンなどその商品を手にするによって、いかに生活が豊かになるか、いかにライフスタイルが変わるのか、を謳う方が受け入れられやすく効果的です。

『ホームカクテル』という企画で私がレモンやライムを育ててみたいと感じたように、植物を通じていかに豊かで新しいライフスタイルを提案できるか…。そんな視点から商品開発が行えれば、たとえ一般種でもまだまだ新しい需要を生み出せるのだと再認識させられました。



会員紹介

八大株式会社

八大(株)は物流会社で、運送・加工を行っております。

花き流通に関しましては“フラワーシャトル”という名称で“大田市場花き部”を中心に首都圏の店舗流通網を、近畿圏では“なにわ花市場”を中心に店舗流通網を構築しております。

また、花き物流ネットワークを使い、遠隔産地から首都圏店舗へのダイレクトデリバリーも行っております。加工に関しましては 仕分けから花束加工・店舗への配送まで。物流の観点から、生産者様～店舗～消費者の距離を近づけるお手伝いをしております。

是非、首都圏、関西圏の花き物流に関しましてはご相談下さい。



八大株式会社 <http://www.hachidai.co.jp/>

フラワーシャトル <http://www.flower-shuttle.jp/>